

第1章 調査の目的と概要

1 調査の目的

調布市は、調布市基本構想（平成25年度～平成34年度）及び調布市基本計画（平成27年度～平成30年度）に基づき、総合的かつ計画的なまちづくりを進めています。

調布市基本計画では、計画期間中の各施策の成果を図る目安として「まちづくり指標」を設定しています。

調布市民意識調査は、「まちづくり指標」の現状値や、市民が日常感じているくらしの満足度、市の施策に関する市民ニーズ等を把握し、今後の市政・まちづくりに活用することを目的としています。

また、調布市は平成27年10月に「調布市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「調布市総合戦略」という。）を策定しました。調布市総合戦略は、やがて訪れる人口減少、本格的な超高齢社会に対して、将来にわたって活力ある豊かな地域社会を維持し、だれもがより安心して快適に暮らせるまちづくりを総合的に推進していくための施策展開を戦略として定めたものです。

調布市総合戦略においても、施策の効果を検証するため、成果指標を設けており、本調査により数値を把握することとしています。

2 本報告書の特徴

「まちづくり指標」の現状値を把握

基本計画（平成27年度～平成30年度）の分野別計画では、全31施策、88項目のまちづくり指標を設定しています。そのうち、本調査により把握する指標は18施策25指標となっています。

これらの指標について平成30年度における現状値を把握するとともに、経年変化の比較を、表やグラフを用いて、分かりやすく記載しています。

満足度と優先度の両面から分析

効果的・効率的に行財政運営を進めるため、市民が普段のくらしの中で感じている、市政全般に対する満足度と合わせて、今後、優先的に解決、改善、向上に向け取り組むべきと思う施策の優先度を把握することにより、今後、重点的に力を入れて改善すべき分野を分析しています。

調布市総合戦略に位置付けた「基本目標における数値目標」及び「重要業績評価指標（KPI※）」の現状値を把握

調布市総合戦略では、施策の効果を客観的に検証するため、基本目標ごとに数値目標を、また、施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

本調査により把握する指標は、数値目標全12指標のうち7指標、KPI全50指標のうち19指標となっており、そのうち数値目標6指標、KPI16指標が、基本計画で設定しているまちづくり指標と連動しています。本調査を通して調布市総合戦略の施策の効果を客観的に検証できるようになっています。

※ 重要業績評価指標（KPI）…Key Performance Indicator の略。各施策の効果を客観的に検証するため、施策ごとに設定する成果指標をいう。

【図表 調布市基本構想・基本計画・総合戦略の計画期間】

年度 (西暦)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)
基本構想	調布市基本構想									
基本計画	前期基本計画									
			修正基本計画			後期基本計画				
総合戦略	調布市総合戦略									
市長任期										

3 調査の内容（設問の構成）

調査の設問は、「日ごろの意識や行動」、「市政全般（くらし）」、「東京 2020 大会、ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会」、「公共施設マネジメント」、「あなたご自身のこと」の5区分で構成されており、具体的な設問内容は以下のとおりです。

【図表 設問の構成】

設 問		基本計画 まちづくり指標 (H27～30)	報告書 掲載頁
問	内 容		
日ごろの意識や行動			
1	日ごろから防災対策として以下のことを行っていますか。		P.32
2	自分の住んでいる地域が治安の面で安心できると感じていますか。	○	P.35
3	日ごろから防犯対策として以下のことを行っていますか。		P.37
4-1	この1年間に日常生活の中で、身に覚えのない請求や、しつこい勧誘など、消費生活上のトラブルに巻き込まれそうになった経験がありますか。		P.40
4-2	市役所3階の消費生活センターなどで消費者トラブルに関する相談を受け付けていることを知っていますか。		P.42
5	子ども家庭支援センターすこやかなどで児童虐待に関する相談を受け付けていることを知っていますか。	○	P.43
6	心身ともに健康だと感じていますか。	○	P.45
7	健康ではりのある生活のため、趣味活動や地域活動などに参加していますか。	○	P.47
8-1	定期的ながん検診を受けていますか。		P.49
8-2	どのようながん検診を、どのような場所で受けていますか。		P.51
8-3	がん検診を受けない理由は何ですか。		P.55
9	地域福祉や高齢者福祉に関する相談窓口を知っていますか。	○	P.56
10	「障害者差別解消法」が施行されたことを知っていますか。		P.61
11	障害のある方が周囲に自己の障害への理解や支援を求めるために携帯しているヘルプカードを知っていますか。		P.62
12	この1年くらいの間に、生涯学習に取り組んだことがありますか。		P.63
13	生涯学習を通じて身につけた知識・技能をまちづくりや仲間づくりなど自分以外のために生かしていますか。	○	P.65
14	健康の維持や体力の増進のために意識的に体を動かしていますか。	○	P.67
15-1	この1年間に公共スポーツ施設を利用したことがありますか。		P.70
15-2	公共スポーツ施設を利用しない理由はなぜですか。		P.72
16	近所の方と普段どのような付き合い方をしていますか。		P.75
17	地域の一員としての意識や地域の連帯感を感じていますか。	○	P.78
18-1	この1年間に地域の活動やイベントに参加したことがありますか。	○	P.80
18-2	それはどのような団体のどのような活動で、どこで行っていますか。		P.83
19	「地区協議会」をご存じですか。		P.89
20-1	調布市市民活動支援センター（市民プラザあくろす2階（国領駅北側コクティ内））を利用したことがありますか。		P.91
20-2	調布市市民活動支援センターの存在は知っていても、利用しない理由はなぜですか。		P.93
21	市内農家の農産物直売所（市内スーパーの直売コーナー、農協直売コーナーを含む）を利用していますか。		P.94
22	市内に農地が必要だと思いませんか。		P.96

設 問		基本計画 まちづくり指標 (H27～30)	報告書 掲載頁
問	内 容		
23-1	この1年間に市内外を問わず、文化施設等で芸術文化(音楽、演劇、美術、舞踊伝統芸能、映画など)の鑑賞や、自ら芸術文化活動を行いましたか。		P.98
23-2	どこで芸術文化を鑑賞または芸術文化活動を行いましたか。	○	P.100
24	調布市を住みよいまちだと思いませんか。	○	P.102
25-1	調布市に優れた景観の場所があると思いませんか。	○	P.105
25-2	優れた景観だと思う場所はどこですか。		P.107
26	深大寺周辺の景観が優れていると思いませんか。	○	P.108
27-1	中心市街地(調布・布田・国領駅周辺)が魅力的な街であると思いませんか。	○	P.110
27-2	中心市街地の魅力を高めるために必要なものは何だと思いませんか。		P.112
28-1	普段利用する市内の駅は何駅ですか。		P.113
28-2	普段利用する市内の駅の周辺は利便性が高いと思いませんか。	○	P.114
29-1	住んでいる住居は、高齢者や障害者にやさしいバリアフリー対応(段差解消やスロープの設置など)になっていますか。	○	P.115
29-2	今後、住居のバリアフリー化の必要性を感じていますか。		P.118
30	市内の公共交通機関(電車・路線バス・ミニバス)は利用しやすいと思いませんか。	○	P.119
31-1	普段利用する市内の道路が安全であると思いませんか。	○	P.121
31-2	自宅などから目的地に向かうときに市内を円滑に移動できる道路が備わっていると思いませんか。		P.124
32	これまでに戦争中の話をしたり聞いたりしたことがありますか。	○	P.125
32-2	戦争中の話は「いつ」「誰と(誰から)」話をしたり、聞いたりしましたか。		P.127
33	家事や子育て、介護など家庭内での役割は男女がともに担う必要があると思いませんか。	○	P.128
34	調布市男女共同参画推進センターが市民プラザあくろす(国領駅北側コクティー)内にあることを知っていますか。	○	P.130
35	DV(ドメスティックバイオレンス)に関する各種相談を受け付けていることを知っていますか。		P.132
36	市政・まちづくりに関する情報の入手方法をうかがいます。		P.134
37	調布市議会が行っている広報、広聴活動のうち知っているものはどれですか。		P.136
市政全般(くらし)			
38	次のそれぞれの取組に関して、普段のくらしの中で感じている「①満足度」と、今後における市の取組としての「②優先度」をうかがいます。		P.137
	基本目標1	地震などの災害対策	
		火災などへの消防対策	
		防犯対策	P.141
	基本目標2	子育て支援サービス	
		ひとり親家庭への生活面・経済面の支援	
		小・中学校の教育	
		青少年の非行防止及び健全育成対策	
		就労などの面で困難をかかえる若者への支援	P.143
	基本目標3	高齢者の福祉	
		障害者の福祉	
		労働セミナーや就職面接会の開催など、雇用・就職に向けた取組	
		健康診断など保健サービス	
		病院・診療所などの医療機関	P.145

第1章 調査の目的と概要

設 問		基本計画 まちづくり指標 (H27～30)	報告書 掲載頁
問	内 容		
基本目標4	たづくりを中心とした生涯学習		P.148
	公民館や図書館	○	
	スポーツ振興		
基本目標5	地域コミュニティ(自治会・地区協議会など)の活動の支援		P.150
基本目標6	日常の買い物の便利さ	○	P.152
	市内工業・商業などの活力		
	市内中小企業に対する支援対策		
	深大寺地域などの観光振興	○	
	調布市花火大会		
	「映画のまち調布(映画・映像を“つくる・楽しむ・学ぶ”まち)」を進める取組		
	グリーンホール・たづくり・せんがわ劇場などを中心とした芸術・文化活動		
	歴史・文化財の保存や継承		
基本目標7	街並み・景観		P.156
	中心市街地(調布・布田・国領駅周辺)の活気・にぎわい		
	住宅環境		
	道路整備		
基本目標8	緑の保全や自然環境		P.158
	公園や遊び場		
	ごみ処理		
	生活環境(騒音・悪臭・野焼きなど)対策	○	
まちづくりの基本理念を 実現するために	女性の社会参加・参画		P.160
行革プラン2015	市民参加や市民との協働の取組		P.162
	フルカラー化した市報の見やすさ		
	ホームページの見やすさ		
	民間委託の推進など簡素で効率的な組織づくりの取組		
	窓口・電話口での職員の対応		
	職員数の見直しや職員給与の適正化の取組		
	公共施設等の総合的なマネジメントに関する取組		
	行政評価の取組		
	支出の節減, 収入の確保, 受益者負担の適正化など		
39	問38の取組項目の中で、今後、もっと市が力を入れるべきと思う取組を選んでください。		P.167
40	調布のまちに愛着や誇りを感じるどころ(物・事)はありますか。		P.172
41	今後も調布市に住み続けたいと思いますか。		P.174
42	調布のまちの魅力や個性・特色は何だと思いませんか。		P.176
43	転出したいと思う理由を選んでください。		P.179
東京 2020 大会・ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会			
44-1	調布市で東京2020大会の競技種目の一部やラグビーワールドカップ2019日本大会の開会式や開幕戦等が開催されることを知っていましたか。		P.182

設 問		基本計画 まちづくり指標 (H27～30)	報告書 掲載頁
問	内 容		
44-2	次の競技種目について、調布市で行われることを知っていますか。		P.183
45	調布市における東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた取組(スポーツ・健康イベントやボランティアなど)に参加したい、または関心がありますか。		P.184
公共施設マネジメント			
46-1A	この1年間で利用したことのある施設を選んでください。		P.186
46-1B	最も重要だと思う施設を選んでください。		P.189
46-2	公共施設マネジメントの考え方を踏まえて、以下の方策のうち、取り組んだ方が良いと考えるものを選んでください。		P.192
あなたご自身のこと			
47	性別を選んでください。		P.197
48	年齢を選んでください。		P.197
49	お宅には、あなた以外にどのような方がお住まいですか。		P.198
50-1	職業は何ですか。		P.198
50-2	通勤・通学先はどちらですか。		P.199
51-1	主に使用している情報通信機器は何ですか。		P.199
51-2	普段閲覧・活用しているSNSはどれですか。		P.202
52	現在お住まいの住居形態は何ですか。		P.202
53	調布市にお住まいになって通算何年になりますか。		P.203
54	調布市に住む前にどこにお住まいでしたか。		P.203
54-1	調布市にお住まいになったきっかけ、理由は何ですか。		P.204
55	お住まいの地域はどこですか。		P.205

4 調査方法及び調査期間

調査対象者

市内在住の満16歳以上の市民を対象とし、住民基本台帳から、性別・年齢・地域別の人口構成に合わせて、約3,000人を無作為に抽出しました。

配布と回収

郵送による調査票の配布、回収に加え、対象者それぞれにIDとパスワードを発行し、インターネットでも回答ができるようにしました。

調査期間

平成30年10月10日（水）～平成30年10月31日（水）

5 回収の結果

調査票の回収率は45.1%であり、各属性の回収結果は以下のとおりです。

【図表 属性ごとの回収結果】

属性		対象者数 ^{※1}		配布数 ^{※2}		回収数 ^{※3}		回収率 (%)	うちインターネット 回答数	
		実数	構成比	実数(票)	構成比	実数(票)	構成比		(%)	実数
		(人)	(%)	(a)	(%)	(b)	(%)	(b/a)	(票)	(%)
総数(16歳以上)		189,469	100.0	3,061	100.0	1,382	100.0	45.1	236	100.0
性別	男性	91,685	48.4	1,494	48.8	541	39.1	36.2	125	53.0
	女性	97,784	51.6	1,567	51.2	823	59.6	52.5	111	47.0
	無回答	-	-	-	-	18	1.3	-	-	-
年齢	16～19歳	8,066	4.3	129	4.2	30	2.2	23.3	10	4.2
	20～29歳	27,379	14.5	443	14.5	98	7.1	22.1	37	15.7
	30～39歳	32,514	17.2	527	17.2	192	13.9	36.4	57	24.2
	40～49歳	35,719	18.9	577	18.9	243	17.6	42.1	62	26.3
	50～59歳	27,331	14.4	441	14.4	216	15.6	49.0	38	16.1
	60～69歳	21,280	11.2	345	11.3	208	15.1	60.3	21	8.9
	70歳以上	37,180	19.6	599	19.6	383	27.7	63.9	11	4.7
	無回答	-	-	-	-	12	0.9	-	-	-
年齢 内訳	60～64歳	11,128	5.9	-	-	99	7.2	-	15	6.4
	65～69歳	13,887	7.3	-	-	109	7.9	-	6	2.5
	70～74歳	10,396	5.5	-	-	200	14.5	-	5	2.1
	75歳以上	24,236	12.8	-	-	183	13.2	-	6	2.5
地域	西部地域	41,683	22.0	545	17.8	259	18.7	47.5	44	18.6
	北部地域	50,115	26.5	654	21.4	287	20.8	43.9	43	18.2
	南部地域	84,143	44.4	1,096	35.8	478	34.6	43.6	87	36.9
	東部地域	58,761	31.0	766	25.0	322	23.3	42.0	62	26.3
	無回答	-	-	-	-	36	2.6	-	-	-
地域 内訳	南部地域 (中心市街地)	37,974	20.0	-	-	210	15.2	-	43	18.2
	南部地域 (中心市街地以外)	46,169	24.4	-	-	268	19.4	-	44	18.6

※1 平成30年8月1日現在の16歳以上の住民基本台帳登録者数（日本人のみ）

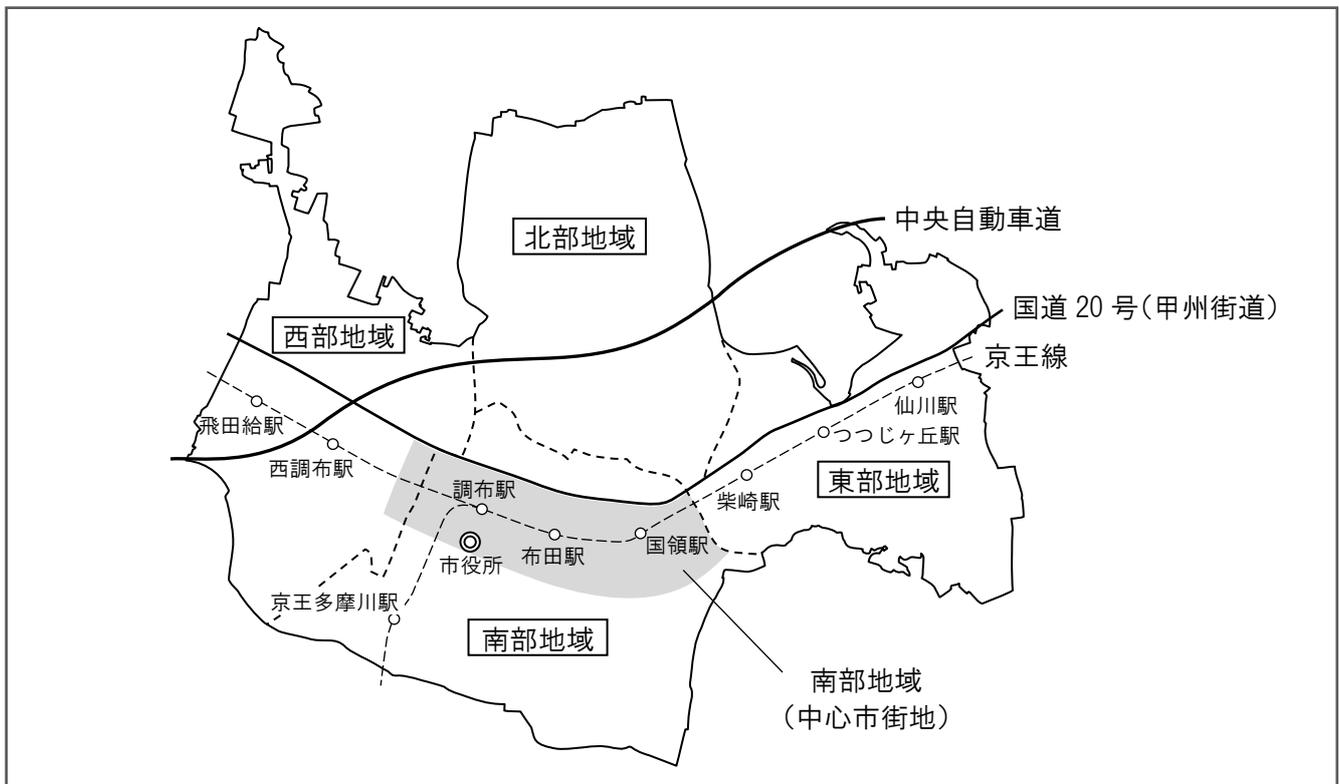
※2 宛名不明等の理由により返送された分を含む

※3 調査票での回答とインターネット回答を含む

6 地域区分

本調査における地域区分は、以下のとおりです。

【図表 各地域の位置と対象となる町丁目】



1 西部地域	2 北部地域	3 南部地域 (中心市街地)	4 南部地域 (中心市街地以外)	5 東部地域
飛田給 1～3 丁目 上石原 1～3 丁目 富士見町 1～4 丁目 下石原 1～3 丁目 多摩川 1～2 丁目 野水 1～2 丁目 西町	佐須町 1～5 丁目 柴崎 1～2 丁目 調布ヶ丘 3～4 丁目 深大寺元町 1～5 丁目 深大寺北町 1～7 丁目 深大寺東町 1～8 丁目 深大寺南町 1～5 丁目	小島町 1～2 丁目 布田 1～4 丁目 国領町 1～5・8 丁目	小島町 3 丁目 布田 5～6 丁目 国領町 6～7 丁目 染地 1～3 丁目 多摩川 3～7 丁目 調布ヶ丘 1～2 丁目 八雲台 1～2 丁目	菊野台 1～3 丁目 東つつじヶ丘 1～3 丁目 西つつじヶ丘 1～4 丁目 入間町 1～3 丁目 仙川町 1～3 丁目 緑ヶ丘 1～2 丁目 若葉町 1～3 丁目

<参考> 回答率の推移

調査年度	回答率	調査対象者	備考
平成 23 年度	45.1%	満 18 歳以上	
平成 24 年度	42.2%	満 18 歳以上	
平成 25 年度	50.8%	満 16 歳以上	※平成 25 年度以降, 調査対象者は満 16 歳以上
平成 26 年度	49.1%	満 16 歳以上	
平成 27 年度	48.2%	満 16 歳以上	
平成 28 年度	48.7%	満 16 歳以上	
平成 29 年度	45.0%	満 16 歳以上	

7 報告書を見る際の注意事項

(1) 集計方法

○本調査では、回答全体（n=1,382）をまとめて集計した「単純集計」のほか、過去の調査結果との「経年比較」や、性別や年齢層などの属性ごとに区分して集計した「クロス集計」を行っています。なお、属性によっては、回答数が少ないため、本調査の結果が調布市における当該属性の傾向と異なる可能性があることをご理解のうえ、調査結果をご覧ください。

(2) 数値の端数処理方法

○回答比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合や、内訳の合計が、表示されている値と一致しない場合があります。
○上記比率の分母となる回答総数は、「n」として掲載しています。

(3) 自由意見

○自由意見は基本計画（平成27年度～平成30年度）の施策体系に基づいて分類しています。
○複数分野について言及している場合は、適宜分離したうえで、該当する項目に分割して掲載しています。又、分離ができないものについては再掲を行っています。

(4) その他

○本文及び図表において、設問選択肢の表記の長いものについては、煩雑さを避けるために、一部で表記を簡略化しています。
○一般的に、意識調査を実施する際に1,100件程度を対象とすれば母集団全体（本調査では市の人口に相当）の意見との誤差は±3%以内に収まるとされています。本調査の対象者数約3,000人（回収数約1,400件）は調査結果を見るうえで、統計上有効な数値であると考えられます。

(参考) 意識調査の必要サンプル数の計算方法

一般的な統計理論では、「〇〇について賛成か、反対か」という設問の場合、必要サンプル数は以下の式で求められます。

必要なサンプル数＝信頼水準の2乗×回答比率×（1－回答比率）÷目標誤差（%）の2乗

（本調査の必要サンプル数： $(1.96)^2 \times 0.5 \times (1-0.5) \div (0.03)^2 \doteq 1,067$ （票））

信頼水準：正しく判断できる確率のこと。一般的に国などが行っている標本調査では、95%に対応する「1.96」という値が用いられる。

回答比率：賛成または反対の回答比率として設定するもの。通常は、調査対象者数が最大となる「0.5」を用いる。

目標誤差：標本調査（サンプリング調査）と全数調査の結果の間に生じる誤差（標本誤差）の目標値。本調査では±3.0%以内とするので、「0.03」とする。

資料：総務省統計局『なるほど統計学園高等部』ホームページ